

Jul. 2020



IEEJ Webinar

COVID-19とロシア：エネルギー情勢及びプーチン政権の現況と展望

「COVID-19パンデミックとロシア石油・ガス情勢」

2020年7月9日

(一財)日本エネルギー経済研究所
戦略研究ユニット 国際情勢分析第2Gr.

栗田 抄苗

IEE JAPAN

報告内容

1. 油価下落、コロナ禍の影響下での石油・ガス生産
2. 今後の石油・ガス生産の見通し
3. 今後の着眼点
4. まとめ

ロシアの内憂外患

ロシアの石油ガス部門が構造的に抱える問題

- 既存油ガス田の老朽化
- 特に、石油は西シベリア以外の新規開発が急務
- 欧州市場への高い依存
- ウクライナ経由に偏った輸送インフラ

解決優先度の高い問題としてロシア政府も認識

ロシアを取り巻く外的要因

油価
下落

COVID-19

米国・EUによる
対ロシア制裁

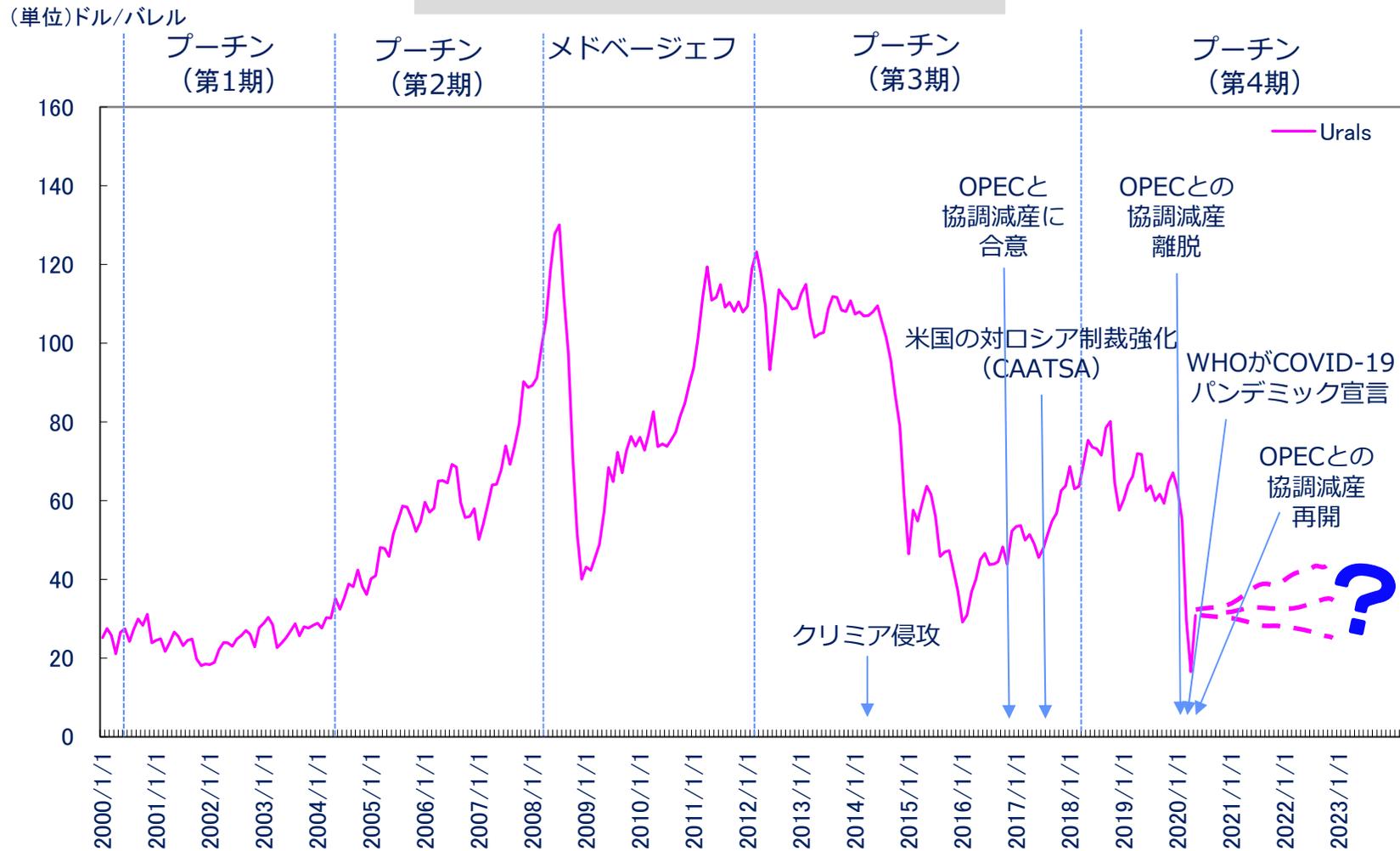
グリーンエネル
ギーへのシフト

地球温暖化
問題

油価下落、コロナ禍による需要縮小に直面



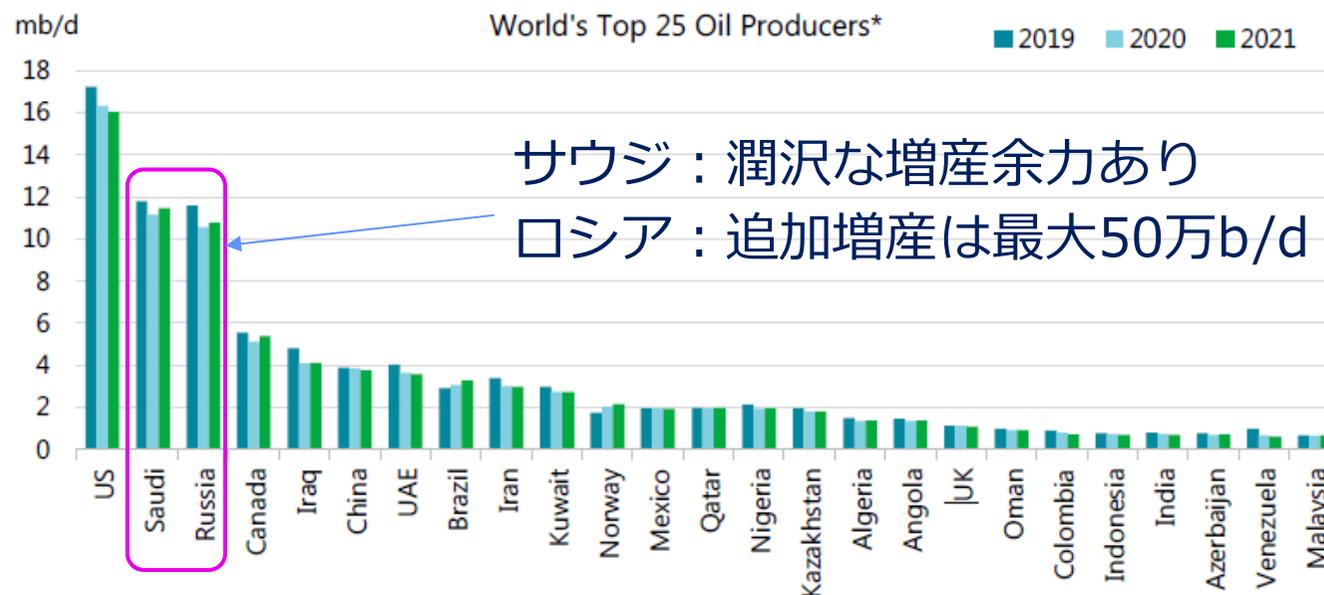
ウラル原油の価格推移



(出所) IEA, Oil Market Report各版より作成

OPECプラス参加→離脱→復帰

- サウジアラビアとのエネルギー部門における関係強化（「OPECプラス」での協力含む）を通じ、油価下支え・自らの影響力拡大等を図る
- 3月、OPECプラスの追加減産方針に反発し、離脱表明
- 米国シェール生産に打撃を与えると共に自国シェアの拡大を狙うも、ブーメラン効果に直面→復帰へ方針転換



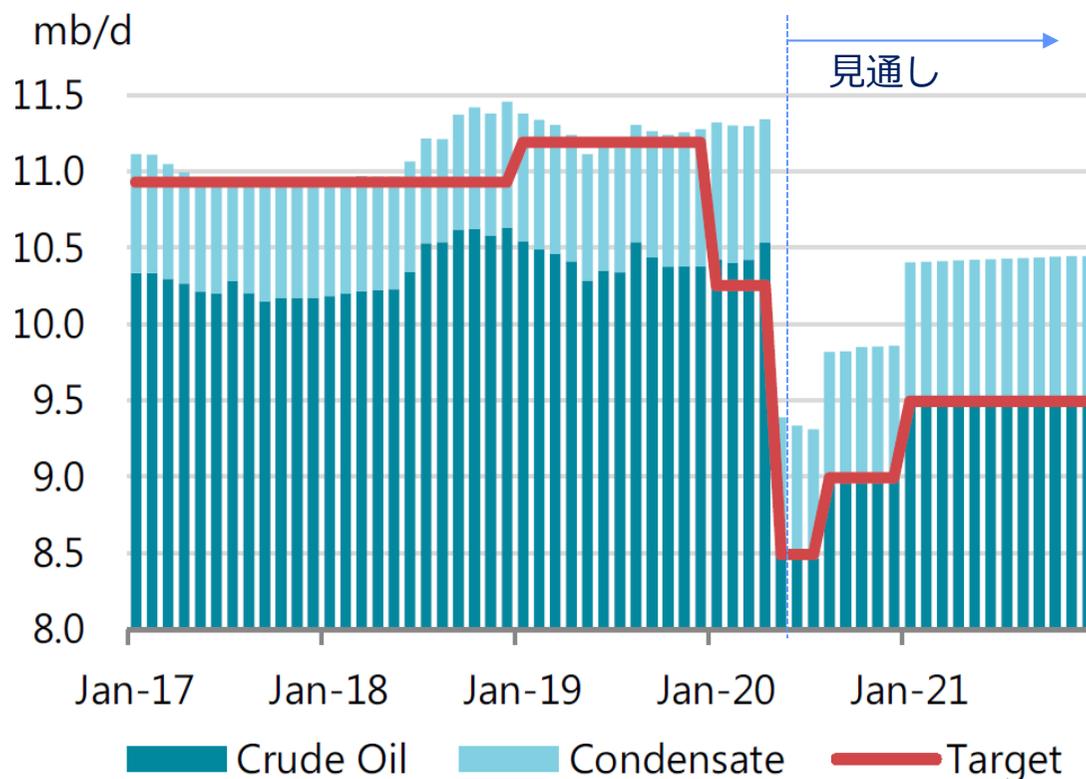
* Ranked by 2020 production. Assumes 100% compliance with OPEC+ cuts from June 2020.

(出所) IEA, Oil Market Report, 16 June, 2020

油価下落、コロナ禍による需要縮小に直面

- 4月、OPECプラスによる協調減産に復帰
- 5-7月の生産目標は849万b/d、8月以降は段階的に緩和へ

Russia Crude and Condensate Supply



Source: CDU-Tek, IEA estimates. From 2020, target for crude only.

(出所) IEA, Oil Market Report, 16 June, 2020に加筆

石油各社の減産実績 (5月)

	4月比	
	万b/d	%
Rosneft	-60.0	-16
Lukoil	-34.5	-21
Surgutneftegaz	-29.5	-23
Gazpromneft	-17.7	-20
Slavneft	-11.0	-37

mb/d

(出所) IEA, Oil Market Report, 16 June, 2020より作成

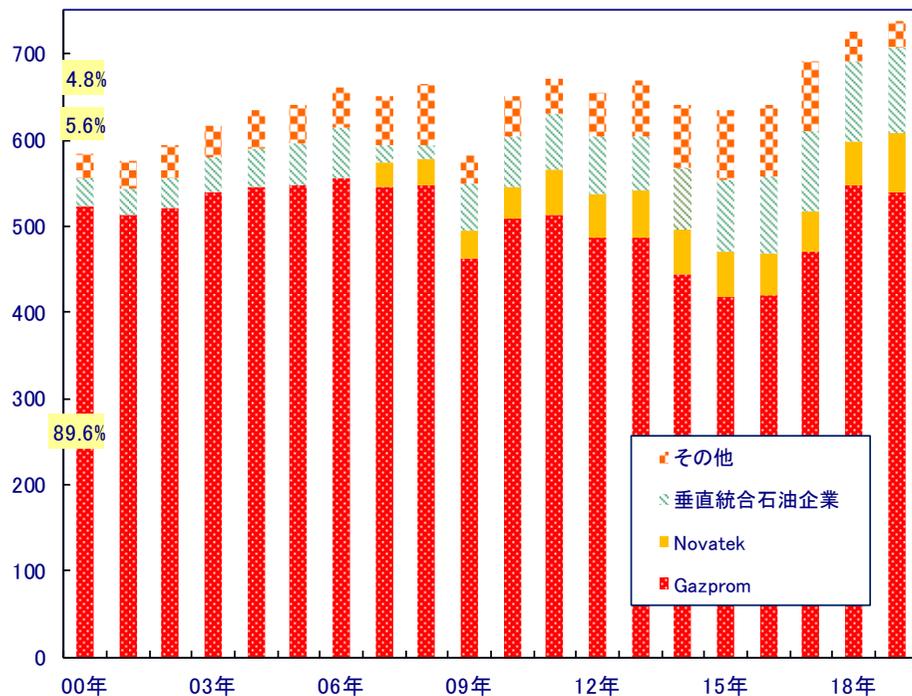
- 主に既開発油田の生産効率の低い油井で減産
- 新規油田も一部含まれる

2020年は暖冬および需要減を背景にガス生産減少

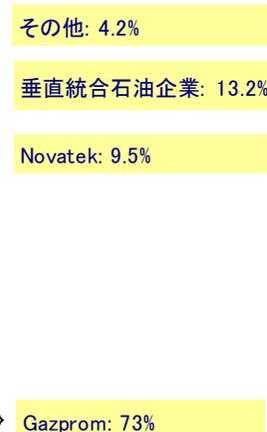
- 石油企業、ノバテックのガス生産量に占めるシェア拡大
- 2020年初からガスプロムの生産は急減
- 2020年Q1のCIS域外向けガス輸出量は前年同期比29%減

主要企業別ガス生産量

(単位)Bcm

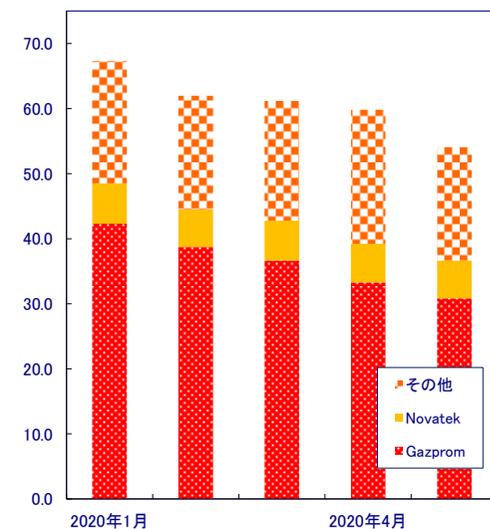


(単位)%



ガス生産量（2020年1-5月）

(単位)Bcm



(出所) Argus, FSU Energy,
2 July, 2020より作成

(出所) 1995-2006年:"The Almanac of Russian and Caspian Petroleum",
Energy Intelligence Research, 2006 Edition., 2007年以降:Russian Oil & Gas Weekly各版, Interfax.

政府は経営悪化した石油産業の救済策を検討



- ◆ 石油各社は2020年1Qに純損失を計上
 - ロスネフチ: -20億ドル ガスプロムネフチ: -2億ドル
 - ルクオイル: -67億ドル
- ◆ 掘削・サービス契約は30-40%減少

石油企業の支援要請と政府の対応

石油企業からの要請(4月)	政府の対応
<ul style="list-style-type: none"> ● ロシア国内の掘削・サービス企業の支援 (ルクオイル、ガスプロムネフチ、タネフチが要請) ● “unfinished oil wells”の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 掘削・サービス企業の救済を目的とした基金設立を検討 ● 輸送タリフ値下げに関する素案作成を政府に指示 ● 国営銀行から良好な条件で借り入れを行って掘削する油井リストの取りまとめを指示
ロスネフチ・セーチン社長の要請(5月)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 金融政策の緩和(融資を受けやすく) ● 鉱物資源採取税の納税期限を猶予 ● 原油・石油製品パイプライン輸送企業トランスネフチ、ロシア鉄道の輸送タリフの値下げ 	

(出所) ロシア大統領府プレスリリース, ロスネフチプレスリリース, 各種報道より作成

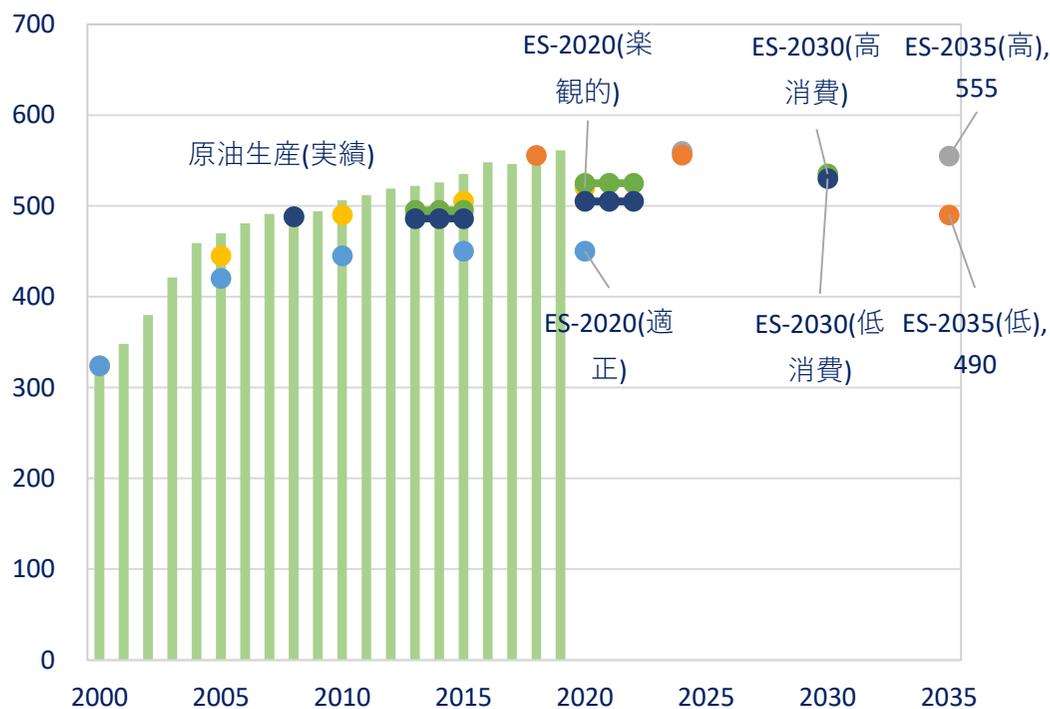
2035年までのロシアエネルギー戦略： 原油生産・輸出はともに減少傾向へ



- 原油輸出量はどのシナリオでも減少する見通し
- その主な原因は、西シベリア成熟油田の減退を新規油田開発で補完できないこと（北極海・深海部・タイトオイル開発技術・サービスに欧米制裁）

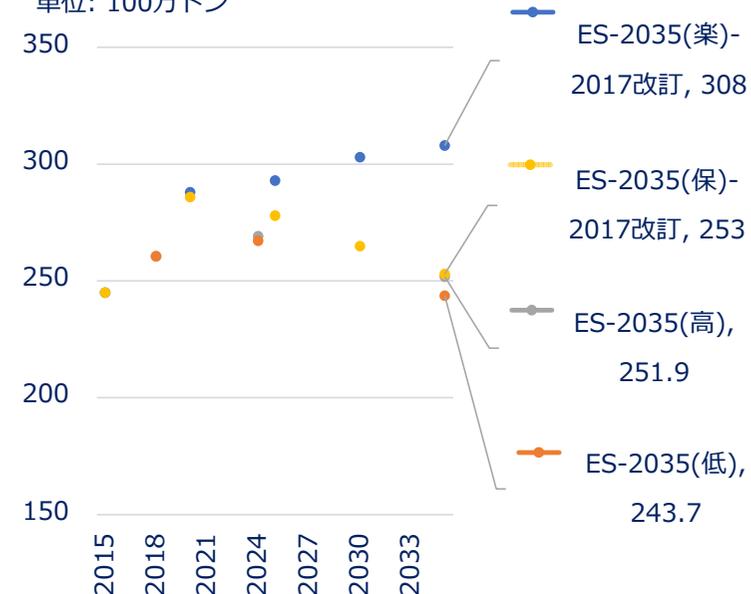
原油生産量の見通し

単位: 100万トン



原油輸出量の見通し

単位: 100万トン



出所: ロシアエネルギー省, ES-2035
(2017年2月改訂版および2020年6月改訂版)
より作成

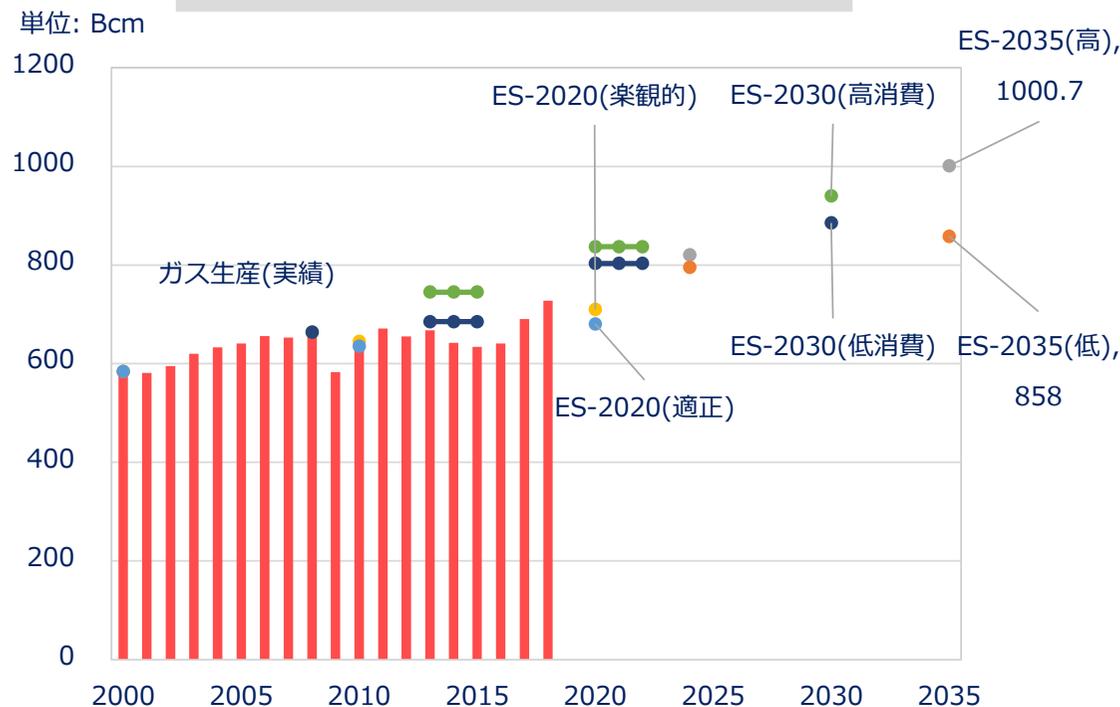
IEEJ © 2020
出所: ロシア連邦国家統計庁, 「ロシア統計年鑑」各版.,
ロシアエネルギー省, ES-2020, ES-2030, ES-2035(2020年6月
改訂版)

2035年までのロシアエネルギー戦略： ガスは一貫して増産・輸出拡大

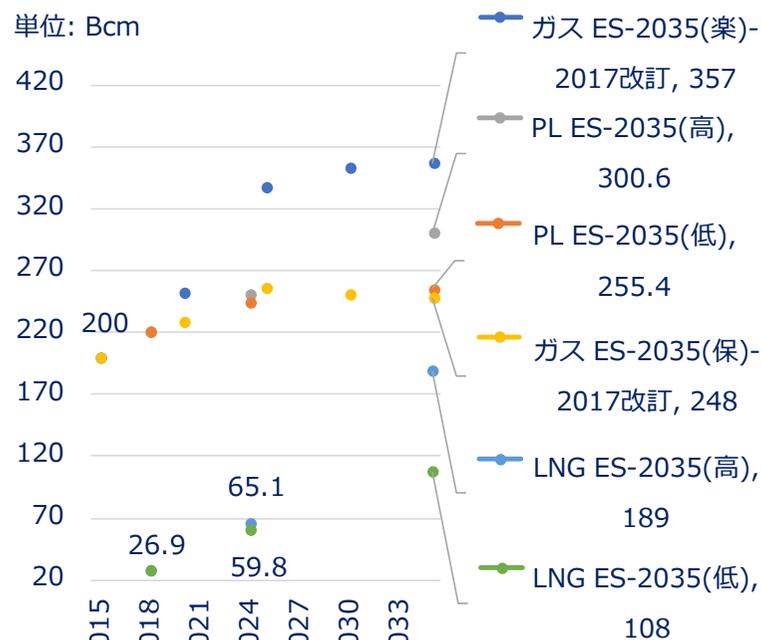


- 2035年のPL輸出255.4~300.6BCM、LNG輸出108~189BCM、輸出に占めるシェアはLNGが30~39%へと大きく拡大
- パイプライン輸出の増分全量を中国に供給する見通し
- 中国への輸出依存度がさらに高まり、中国との交渉力が相対的に弱まる

ガス生産量の見通し



ガス輸出量の見通し



出所:ロシアエネルギー省, ES-2035
(2017年2月改訂版および2020年6月改訂版)
より作成

IEEJ © 2020
出所:「ロシア統計年鑑(2017年版)」,ロシア連邦国家統計庁,
ロシアエネルギー省, ES-2020, ES-2030, ES-2035(2020年6月
改訂版)

今後の着眼点

- ロシアの石油企業による初めての能動的減産
→今後の同国の原油生産・減産フェーズ入りのタイミングに及ぼす影響は？
- 世界的なCOVID-19の感染拡大に伴う需要減少から回復する際、タイミングよく需要を取り込めるのか？
- 主な輸出先である欧州市場のグリーンエネルギーへの転換がロシアのエネルギー政策に及ぼす影響は？
- 中国市場を念頭に置いたガス増産・輸出はどの程度実現するのか？
- 欧米による対ロシア制裁はどの程度深刻化していくのか？

まとめ

- 今回の能動的生産は、ロシアの原油生産量が減少に転じるタイミングを早める可能性あり
- タイミングよく需要を取り込むには、新規油田の開発・生産、輸送ルート確保が必須
- しかし、欧米による北極圏・深海部・タイトオイル開発に関する技術・サービスへの制裁は新規開発の進展を阻む（→国内掘削・サービス企業救済を求める背景の一つ）
- また、欧米による海底パイプライン関連の制裁は新規輸送ルートの完成を阻み、ロシアは中国への輸出依存度をさらに高めることになろう
- 総じてロシアを取り巻く国際エネルギー情勢は厳しい